

平成30年 5月 市長定例記者会見

2018年 4月27日(金)

午後 1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、定刻となりましたので、ただいまから平成30年 5月市長定例記者会見を始めます。

最初にお知らせを申し上げます。記者クラブの方に異動がございまして、本日初めてこの会見に参加されます記者の方をご紹介します。

【記者】 (挨拶)

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

では、本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答が終了しましたら、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進みます。

なお、質問の際は、お手数ですが、ご自席のマイクのスイッチを入れていただきまして、ご質問後はお切りいただきますよう、よろしくご協力をお願いいたします。

終了は14時30分を予定しております。ご協力のほどお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 5月の定例記者会見ですけれども、平成30年度が始まりまして約1か月が経過いたしました。4月から新たな体制で、敦賀市再興プランに係ります各戦略について進めてまいりますので、またよろしくをお願いいたします。また、今年は国体が開催されるということでございますので、それについても体制強化を行って成功につなげていきたいというふうに思っております。

また、最近の出来事ですけれども、4月4日にポーランドの特命全権大使が敦賀に来ていただきました。リトアニア、ポーランドを訪問したときの、よく行っていただいたということで来ていただいたというふうに思っております。ムゼウム、また市立博物館などをご覧いただきまして、今後も連携をしていきたいと思いますということを言っていただいたところであります。

それから、ダイヤモンド・プリンセスが4月17日に、また2,700名の満杯のお客様を連れて来ていただきました。敦賀の場合は、今回は桜のシーズンでしたので、桜の小枝を乗客の皆さん、また送迎の皆さんにお配りさせていただいて楽しんでいただいたということでありまして、ほかにたくさんのイベントをお手伝いしていただいた皆さんに本当に感謝申し上げます。

先日、カーニバル・ジャパンのほうに伺いましたら、すごくよかったよということをまた言っていただきましたので、さらなる誘客に向けて頑張っていきたいと思っておりますし、8月1日には、ぱしふいっくびいなすが寄港していただきますので、そのときもしっかり頑張っていきたいと思っております。

それから、国道8号東浦バイパスですけれども、15.5キロ区間のうちの田結から挙野までの現道5キロの区間につきまして事業化ということをしていただきましたので、引き続き東浦の皆さんとともに、期成同盟会の皆さんとともに、今度、事業の工事の早期工事実現ということで頑張っていきたいというふうに思っております。

それから、25日には、近畿経済産業局長の森清局長様に敦賀に来ていただきまして、経済界の皆様と意見交換をしていただきました。今年の夏、国体までにICOCAなどの電子カードが使えるようになりますので、さらに近畿圏とのつながりというのを深めていかななくてはいけないというふうに思っておりますので、そういう動きの中でやっていきたいと思っています。

それから、昨日、日本海縦断観光ルート・プロジェクト推進協議会ということで東京での開催に行かせていただきました。敦賀の場合は、新潟市、舞鶴市、そして豊岡市、WILLER株式会社とともに、発起人でありますし、また今回、佐渡市、加賀市さんが加わっていただいたということで、ほかにも自治体以外にも民間の事業者さんも加わっていただきまして、日本海側の観光ルートをつないでいきましょう、太平洋側でつながっているものに対して日本海側は単発なので、そうじゃなくて、つながった観光ルートを構築するために頑張っていきたいと思いますということで、5月22日にホームページも立ち上げますし、観光商品もそこから旅行者向けに開設してプロモーションを実施していくというふうに伺っております。ぜひとも、これが敦賀だけでなく、嶺南地域、また嶺北のほうともつながっていけることを期待しているところであります。

そしてもう一つは、お手元にあると思いますが、北前船の日本遺産の認定の冊子が昨日できたそうで、手に入ったところなので今お配りしましたので、また中を見ていただければと思います。一番後ろのページに敦賀は出ておりますので、こういう日本遺産なんかでもつながって連携していきたいというふうに思っております。

今日はいろいろと申し上げましたが、どうか敦賀がにぎやかになっていきますように頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いします。

**【秘書広報課長補佐】** 続きまして、事業発表をお願いします。

**【市長】** では、本日の事業発表は4項目ありますが、順番に言わせていただきます。

1つ目は、第36回親子のフェスティバルの開催ということで、親子の触れ合い、仲間との触れ合い、地域との触れ合い、自然との触れ合いを通じて青少年の健全育成を図ることを目的に、5月13日日曜日午前9時から午後3時まで、きらめきみなと館とその周辺におきまして親子のフェスティバルを開催いたします。

今年も触れ合いをテーマとして、ダンスパフォーマンスや和太鼓演奏などの催し物、また働く車の搭乗や船舶の乗船などの体験型イベントで皆さんに楽しんでいただきます。また、今年は新たに、はぴウォールという、リードクライミング体験というらしいんですけども、ボルダリングとちょっと違うらしいんですが、はぴウォールやミニSLも加わり、親子で楽しめる一日となっておりますので、ぜひ多くの方々のご来場をお待ちしております。

詳しくはお手元のパンフレットをごらんください。

2つ目は、クリーンアップ大作戦です。

市民総ぐるみ環境美化運動・クリーンアップふくい大作戦ということで、一斉拠点活動、気比の松原クリーンアップについてですけれども、6月の環境月間に合わせて、新しい自然環境や住みやすい生活環境の保全のために市民総ぐるみ環境美化運動・クリーンアップふくい大作戦を実施します。各地区や事業者等で清掃活動にご協力をお願いいたします。

また、今年の9月、10月には福井しあわせ元気国体・障スポが開催されますので、敦賀

市を訪れる多くの選手、監督、関係者や一般来場者の皆様を気持ちよくお迎えできますように、市民一人一人の環境への関心を深めまして環境保全活動への積極的な参加推進を図るため、敦賀の観光名所でもあります気比の松原周辺において一斉清掃活動を実施いたします。多くの皆様の参加をお待ちしておりますので、よろしくお願いいたします。

それから、3つ目ですけれども、市民とのざぶとん会の開催ということでありまして、私ですけれども、市民の皆さんとまちづくりに関するご意見などを直接お聞きするために、ざぶとん会を今年も市内11カ所で開催させていただきます。開催日程は別紙の資料のとおりですけれども、このざぶとん会を通じまして、市民の皆さんが日々何を感じているのか、そしてまたどのようなまちづくりのアイデアをお持ちなのか、直接お話を伺ってご意見を伺いたいというふうに思っております。

それから、最後はクールビズの実施ということですが、平成17年度より実施しておりますクールビズにつきましては、節電の必要性等を踏まえまして、今年は5月1日火曜日から9月30日日曜日までを実施いたします。

ただ、今年は福井しあわせ元気国体・障スポがありますので、それが終わります10月15日月曜までは広報啓発用のポロシャツの着用も認めますので、この辺ご理解をよろしくお願いいたします。

発表項目は以上です。よろしくお願いいたします。

**【秘書広報課長補佐】** それでは、ただいま発表いたしました項目についてご質問をお受けしたいと存じます。

最初に、幹事社さんからお願いいたします。

**【記者】** このガイドブックについてもよろしいでしょうか。

これ全体で何部つくられて、そのうち敦賀ではどれぐらいあるんでしょうか。

それとまた、この11自治体だけじゃなくて、むしろ11自治体以外のところにこういったものが要るような気もするんですけれども。

**【産業経済部長】** まず、このガイドブックの印刷部数につきましては、各市500部いただいております。そして、こちらのほうの案内に書いてございます小中学校、公民館、関係の市の施設とか、また商工会議所さんとか、昆布の関係とか、そういったこちらのほうでご協力いただいている事業者さんにも配布をする予定でございます。

以上です。

**【市長】** 今おっしゃるように、ほかの自治体さんということなんですけれども、そこまでは、今もらったところなので、どこに配るかというのはまだ決めてないです。

**【記者】** あともう1点。この北前船の振興協議会の活動で、今年度、何か予定されているものはあるのでしょうか。

**【産業経済部長】** こちらのほうの北前船日本遺産推進協議会の中で、中国の大連でフォーラムを開催するということを計画しているところです。

大きいところはそういった部分で、あと、7月に三国……。

**【副市長】** 7月に三国で北前船フォーラムというのを開く予定で、これはこの11団体だけではなくて、北前船に関係ある自治体はまだたくさんありますので、そういった団体も入れて三国で北前船フォーラムを行う。

**【市長】** 7月12日だそうです。5月26日に大連でやります。敦賀は、ちなみに来年やり

ます。

【記者】 同じガイドブックの件なんですけれども、まだ具体的に決まっていなかもわからないんですけれども、教本として活用するというのはどういう、授業の中でどれぐらい取り入れていくとか、何かお考えみたいなものがあるんでしたら教えていただきたいです。

【市長】 敦賀でやろうとしているのは、おぼろ昆布を売ろうとしておりますので、それにつなげていきたいんですが、全体としてどんな活動をしているとか、どんなところがありますよというのが第1弾で出てきましたので、これをまたいろんなチャンスに、周りの自治体とか知っていただいとということになるかと思えます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺いいたします。発表項目につきましてご質問がありましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 ざぶとん会のことなんですけれども、まちづくりのお話ということですが、多分それぞれの地域のことになると思うんですけれども、大卒、今、再興プランの話もありましたけれども、市長としては、各地に出かけていってどのようなことを話したいというふうにお考えなんでしょうか。

【市長】 ざぶとん会へ行きまして、敦賀市でこんなことをやっていますよというご紹介は一つさせていただくんですけれども、その次に出てくる、こんなことを考えているんだけれども市としてどうなんだろうとか、自分はこういうアイデアがあるんだけれどもということを聞かせていただくのが一番いいのかなと思ってやっています。

ですから、その中で一応お願いしていますのは、要望書とかいうのは区の区長さんのほうで上げてきてくださいとか、議会なんかもありますので。ですから「かなえることはできないですよ」と言いながら意見交換をさせていただくという形ですけれども、その中でもいろいろ、ああそうだなというのがありますので、そういうものは実施していくという形をとっています。

【記者】 今後のまちづくりの話と書いてあるというか、今こういうことに取り組んでいますよという話をまず振ってという話ですよ。

【市長】 そうです。

【記者】 わかりました。

【秘書広報課長補佐】 次の方、お願いします。

【記者】 関連なんですけれども、ざぶとん会、例年と同じような大体日程ということでもいいですか。5月から9月までということ。

【市長】 はい、そうです。5月から、去年は大分延びたんですけれども、今の予定では9月までに終わらそうという予定でおりますが、日程が入ってくればどんどん延びていきますので、例年ぐらいになるんじゃないかなと思います。

【記者】 9月まで聞かれて、市民からまちづくりに関するアイデアみたいな意見を市長が伺って、それをどう反映していくかというのは来年度以降とかいう話にもなってくると思うんですが、統一選がありますので、この9月を終えて、何らかまた、このざぶとん会も踏まえて、今後出馬というか、そういう話にはつながっていかないのか。

【市長】 そこはちょっと難しいんですけれども。とりあえず今年もお聞きして、どんなことを考えていらっしゃるのかということもありますし、いいものがありましたら次年度

の政策に、組むのに、聞いてすぐというわけにはできませんので、今のうちにそういうことを、次年度の政策の中に織り込めるものは織り込んでいきたいというふうに思っています。

【記者】 今、次年度の政策というようにおっしゃったということでもいいんですか。

【市長】 次年度の政策といいますかね、予算の中に。

【記者】 わかりました。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと行きたいと思います。これも幹事社さんから、よろしく願いいたします。

【記者】 原子力規制委員会の委員長が、もんじゅで核燃料の取り出しをするまでに実際に現場を視察して、その際に、もし地元との都合が合えば立地自治体と意見交換をしたいという考えを示されているんですけども、このことについて、まずどう受けとめておられるかということと、立地自治体のほうから規制委員会に何か言いたいことというのはあるのでしょうか。あれば、どういったことを言いたいのかお伺いしたいと思います。

【市長】 規制委員会からということ、私どものところへは何も今、来てないんですよ。ですから日程も含めて、どのような形で行うということも何も聞いていないので、実際そういうふうにおっしゃっているというのはほかから聞きますけれども、アプローチはないというところが現状かなと思っています。

今まで規制委員会のほうにいろんなお話をしに行こうとしましたけれども、なかなか会っていただけなくて、しかもマスコミさんはシャットアウトで最初の写真撮りだけみたいな世界ですから、よくわからないというのが正直なところです。言いたいことはいっぱいありますけれども、またそのときに言います。

【記者】 今日、経産省のほうでエネルギー基本計画の骨子案が示されたと思うんですが、その中で、原子力の位置づけが今までと変わらずベースロード電源で維持をするというふうについている一方で、市長がたびたび議論をと求められていた新增設やリプレースは入ってこなかった。そういうのを含めて、出てきたこと、見られているかわからないんですけども、受けとめ、思いがありましたらお願いします。

【市長】 去年の8月ぐらいからずっと何回も行かせていただいて、お願いというか、きちんとした方向性を出してほしいということを言っていますけれども、今回もよくわからないままなんだろうなという、先送りしたというようなイメージかなと思いますけれども。ですから、やっぱり立地とすると、例えば今の時点で言えば、7年間ちょっと待ってねと。その間いろんなことを考えてよとえば、それぞれ考えられますけれども、ずるずると行くと、何か立ちどまっておかななくてはいけないような立場に置かれているところがあるので、非常につらいというのが感想ですね。

【記者】 関連なんですけれども、一方で水素が強く強化というか活用強化を打ち出されたんですが、敦賀はハーモニアスポーツ構想の中でも水素社会形成に向けて動いていますけれども、そこは追い風というような印象なんですか。

【市長】 水素につきましては、基本的には四大都市プラスというところで私ら手を挙げていますので、どこまで私らの計画が盛り込まれていくかというのはまだ不透明だと思っていますので、鋭意、続けて頑張っていくしかないなというふうに思っています。ですか

ら追い風になるかどうかもちよっとよくわかりません、今のところ。何とか追い風になるように取り組んでいきたいと思えます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺いします。ご質問がございましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 エネルギー基本計画の骨子案の関連なんですけれども、先ほど市長、先送りしたイメージとあったんですが、これは原発の新增設、リプレースに関する文言が入らなかったことに対する先送りしたイメージなのか、何を先送りしたイメージという捉え方ですか。

【市長】 原子力に対する、国策として進めていくというのを明確に打ち出すというのがどうなのかというのがよくわからないというところですよ。ですから、ベースロード電源と言うものの、将来的にはゼロにするみたいなことも書いてあるし、20から22ということを持続するということもありますし。こちらからすると、どうするの？という正直なところがありますね。新增設、リプレースも当然何も触れなかったんですから、それも先送り。全体で先送りしたイメージはあります。

【記者】 もんじゅに関しては廃炉が位置づけられて、ただ、今後の高速炉開発に向けたロードマップ、年内につくられるロードマップでという形ですが、政府が敦賀を今後も高速炉開発の拠点として位置づけていると打ち出している中で、いわゆる核燃料サイクルとか高速炉開発に関する今回の骨子案の書きぶりについてはどう感じるんですか。

【市長】 済みません。余りそこを気にして見てなかったので申し訳ないんですけれども。しっかり見ていないのでわかりません。ごめんなさい。

【記者】 よろしくお願ひします。私もエネ基の関係でお聞きしたいんですが、今日の場合の中で一部の委員から、原子力をやめるのか、それとも続けたいのかよくわからないという意見も出ていたんですけれども、やはり市長も何かそういうような印象なんでしょうか。先ほどちょっと先送りという表現がありましたけれども。要は、今後も20から22というのを維持するという割には新增設、リプレースがないというので、結局、恐らくこのままだと達成できないような状況になると思うんですけれども、そういうところも曖昧なままやっているというところが本当に国策として原子力を進めるのかどうかというのがよくわからないという全体的なイメージでおっしゃっているということなんでしょうか。

【市長】 そうですね。しっかりと今回決めなかったんだろうなというふうに思えますね。2030年については今までの形と一緒にすし、じゃ、2050年のCO<sub>2</sub>削減についてどうしていくかということも、そうすると見えてこないでしょうし。将来的にゼロにするという文言もあるので、ゼロにするということは、若い人らはそこに飛び込まないでしょうから人材育成にならないですし。ですから、よくわからないというのが正直なところですよ。

【記者】 あと、改めてなんですけれども、今回、新增設、リプレースという言葉が全く触れられてないということに関して、そこに関してのみで言うと、市長として、この間も議会と一緒にいたりしていましたが、そこに関してだけ言うとどういうふうな受けとめられているのでしょうか。

【市長】 新增設、リプレースだけに限って言いますと、やはり原子力をエネルギー政策の中でやっていくというつもりであれば、より安全性の高い炉の開発というのは必要になってきますので、そういうところに目が向いていかないといけないと思うんですけれども、

そういうところは触れられていませんので、安全性の高い炉じゃなくて、今のところを使い回してやっていくとなると、それは何なんだろうなという、長期的な見通しというのはどうなんだろうなというのがやっぱりクエスチョンマークが立ったままという形になりますね。

【記者】 これで最後にするんですけれども。全原協の会長でもあられるので、そういう立場からすると、今回、エネ基は原子力だけじゃなくて国の中長期のエネルギー政策全体を示すものなんですけど、福島のことであつたりとかいろいろ書いてあるんですけれども、やはり改めて余り大きな変更がなかったというか、再エネの部分は主力電源の方向になりましたけれども、原子力という面になると、やはり不十分だなという、ほとんど変わっていないという印象なんですけれども、全原協の会長としてどういうふうにお受けとめになるか。原子力全体ですね。その立場としてはどういうふうにお受けとめになるのか。

【市長】 全原協としてどう考えるかというのは、一回、役員さんとも話をしてみないとこの気持ちはありますけれども。

ですから、私の立場として全体的に見るとという形になると思いますが、例えば福島を応援しようとしても、原子力の産業が元気でないと、そちらに応援する力というか資金というのがなかなかないんじゃないかなという気持ちもありますし、そのために全原協は福島の復興ということと、リプレース、新增設を含めた原子力の推進ということを立てていますので、そういうこともなかなかつらくなってくるんだろうなというのがありますし、各立地につきましても、さっき言いましたように立ちどまった状態で7年も、今度あと3年、10年、ぼーっとしていてねみたいにしても、この間、エネルギー小委員会に行きましたけれども、立地はそうやってどこにも行けなくて困っているんですよということも言ってきましたけれども、そういうふうには世間は見ないんですよ。ただ立地地域というのは自治体として無策でいるんじゃないかみたいに見られているかもしれないけれども、最初は半年したら大体けりつけますからねから始まって、ちょっと待って、ちょっと待ってみたいな形で来ていますので、やはり早くきちんとした方向性を明確に力強く出していただかないと困るというふうに思っています。

【記者】 関連なんですけど、市長が以前から要望している新增設、リプレースは今後とも国には要望していくとか、そこら辺のお考えはありますでしょうか。

【市長】 要望していくつもりなんですけれども、とりあえず今、エネ基が決まっていますと、しばらくはそれでいくんだと思いますので。

【記者】 市庁舎の建設の話なんですけれども。この前、特別委員会が資料が整わないというので流れて、一応4月末までに基本計画を策定するという、たしかスケジュールだったと思うんですが、これは多分遅れるという形になると思うんですが、全体スケジュールにその影響が出るのか出ないのかと、特別委員会の見通しとかがあれば教えてください。

【副市長】 基本計画の策定については、さまざまな意見がある中で、それは基本的機能であるとか設備の整備方針といったところを庁内の関係部局を交えて精査しているところです。そういう関係もあって、想定以上にそういうご意見も多かったということで若干時間を要していますけれども、大体5月末ぐらいの策定めどということで進めてきておりまして、最終的には9月の基本設計のほうに照準を合わせながら一連的にやっていきたいなと。そして今年の10月ぐらいからは実施設計に入れればなというようなめどを立てながら

進めているという状況です。

【記者】 では、特にスケジュールには影響ないということですか。

【副市長】 はい。全体の中で少し、今言ったようにちょっと時間を要している部分はありますけれども、全体の中では、今のところ想定の中で動かさせていただいているという状況です。

【記者】 特別委員会は、もう6月までしない。

【副市長】 今申し上げた庁内のコンセンサスを含めて調整が図れれば、一日でも早い時期で、議会のほうにお願いしたいなというふうに思っています。

【記者】 先日、ダイヤモンド・プリンセスが来て、先ほど挨拶の中でも多くの方がいらっしやってくださったということをおっしゃっていましたが、市長として今回の手応えと、あと水素バスとかも走らせていろいろ挑戦的な試みもされたと思いますけれども、そういうのも含めてのご感想というか、ダイヤモンド・プリンセスなど、今後クルーズ船の誘致というか来航の目標とかも含めて、そこをお話ししていただけたらなと思います。

【市長】 今回、ダイヤモンド・プリンセスは桜の花が咲いている時期ということで、満杯で来られているというふうに聞いておりますが、その中で私のわかる範囲で言いますと、オプションツアーに行かれたのが900名、市内が1,200名ということです。あと、市民の方のシャトルバスに乗っていただいた方が送迎で来られた方が1,500名、そしてまた歩いて岸壁まで来られた方が1,000名ということで、大変なにぎわいになったというふうに思っています。写真を撮ってカーニバル・ジャパンのほうに、東京のほうに報告に行きましたら、やっぱりすごくよかったよと言っていただきましたので、将来的にまた来ていただけるチャンスというのはあるんじゃないかなというふうに期待をしているところです。

いろんな船が来ていただくのが大事だと思いますので、先ほどの8月1日のときにも、しっかりと対応していきたいと思っています。

いい感じだと聞いています。市民の皆さんが、来られるのに嫌そうじゃない、何か普通の人も、良かったねみたいな雰囲気を感じるというんですね。お客さんが町なかを歩いているときに歓迎してくれているような雰囲気を感じるんですよ。それが非常に喜ばれていますと。桜の小枝のことは言ってもらえなかったんですけども、そういう言葉を言っていただきました。桜の小枝も多分、お花見ツアーなので、受けている、良かったというふうに思っているんですけども。

【記者】 これは部長になるかと思うんですけども、まだ今回の来航の効果とかというのはまとまってないのでしょうか。

【産業経済部長】 経済効果の部分につきましては、現在、福井県が試算をしているところでございます。またそういった発表があればということになります。今はあくまでも調整中。

【記者】 ちなみに、手応えとして、平日の来航になりましたけれども、そこと比べての今の手応えというか実感というか、大きく減ったとか、何かちょっと減ったとか、いや、そうでもないというような、印象でいいんですけども、どんな感じをお持ちでしょうか。

【産業経済部長】 それでは、今回、平日ということで、以前までは土曜日だったんですけども、やはり乗船客のシャトル便のバスを、前まではきらめきみなと館までだったのを気比神宮に持っていったというところ、そして、気比神宮でいろんなイベントを行って



いただいたということと、あと気比神宮と金崎宮をつないだシャトル便も出したというところは、外国人の方が相当その便に乗っていただいたというところを見ております。あと、神楽町で行いましたけひさんアートマルシェが土曜日の去年よりも出店者数が若干多かったのかなというぐらい結構出していただいておりますので、非常にそういった部分の手応えは感じております。

それと、若干減ったなというのが、クルーズボランティアさんとかいろんなボランティア活動をされる方のスタッフが、やはり土曜日よりも平日は若干人数的にはちょっと落ちましたけれども、皆さん熱い思いでおもてなしに努めていただいたと思っております。

【記者】 関連なんですけれども、カーニバル・ジャパンに行かれたのは、さらなるダイヤモンド・プリンセスの寄港をお願いしに行ったのか。いつごろ行かれたとか。

【市長】 ダイヤモンド・プリンセスがぐるっと回って横浜に帰った日なので、20日に行ってきました。こういうふうにおもてなししましたよということをアピールして、また次の航路の誘致をしようというのが目的です。

【記者】 多分、19年度の上期まではまだ敦賀寄港は決まっていなくても、これはやっぱり県と市と一緒に誘致活動をしていくのか、それとも県に任せていくのかとか、そこはどういう感じになっているんですか。

【市長】 来年の下期に向けて、下期以降になりますよね。県のほうでもアメリカに行っていてますし、私どもも行っていますので、やはり一緒にやらないとだめだというふうに思っています。

前に行ったときに言われたんですけれども、日本の代理店はよくわかっていると。敦賀の努力はよくわかっていますし、お客さんが喜んでくれたのもよく知っているよと。本社に上げたときに、アメリカで、敦賀ってどこという話になる。その認知度をもっともっと上げてもらわないと定期航路にはなかなかありませんねということでしたので、そういう意味では、福井県と一緒に力を合わせて知っていただくということと、喜んでいただいたという実績をアピールするということが非常に大事だと思いますので、20日の日に持っていったときもA4ぐらいの写真をたくさん持って行って、こういうふうにおもてなししました、こんなふうに喜んでもらいましたというのを持って行って渡してきましたので、またそれをみんなで見てもらうという形をとりたいと思っています。

【記者】 そういった形で継続寄港にはつながると見ているということでもいいですか。

【市長】 チャンスはあると思いますので、広げていきたいと思っています。

【秘書広報課長補佐】 それでは、これもちまして5月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。ありがとうございました。

午後2時10分 終了